

顕著な普遍的価値の遡及的陳述 (知床世界自然遺産地域)

【a. 概要】

知床は、北海道北東部、オホーツク海に突き出た知床半島の一部と周辺海域に形成された、世界で最も豊かな複合生態系の一つである。

知床の特徴は海氷形成の影響を受けた海域と陸域の生態系の相互作用とその生産性の高さにある。海氷形成にともないオホーツク海に形成された栄養塩の豊かな中層水の供給により、春先の植物プランクトンの大増殖をはじめとする連続的な低次生産が起こり、知床の海洋生態系を支えている。これらはサケ科魚類の遡上を通じて、ヒグマやシマフクロウ等の陸棲動物の餌資源を支えている。

陸上生態系では複雑な地形や気象条件を反映して様々な種類の原生的な植生が分布し、シトロコスミレなど絶滅危惧種や固有種を含む豊富で多様な動植物の生息生育地となっている。

【b. 登録基準の証明】

クライテリア (ix) (生態系) :

知床は北半球で最も低緯度に位置する季節海氷域であり、季節海氷の形成による影響を大きく受け、特異な生態系の生産性が見られるとともに、海洋生態系と陸上生態系との相互関係の顕著な見本である。

クライテリア (x) (生物多様性) :

知床は海洋性及び陸上性の多くの種にとって特に重要であり、これらの中にはシマフクロウ、シトロコスミレなど多くの希少種や固有種を含んでいる。遺産地域は多くのサケ科魚類、トドや多くの鯨類を含む海棲哺乳類にとっても世界的に重要である。知床は世界的に希少な海鳥類の生息地として重要であるとともに、渡り鳥類にとって世界的に重要な地域である。

【c. 完全性】

遺産地域は、極めて豊かな沿岸の海洋生態系と原生的な陸上生態系による複合生態系が保たれた地域を全て包含する 71,100haに及び、生態系と生物多様性の長期的保全に十分な規模を有している。海域の境界線は、海岸線から3kmであり、海洋の生物多様性にとって生態学的に重要な地域である水深 200mまでの地域を含んでいる。海域においては、極めて重要な地域の産業として、長年にわたり漁業活動が持続的に行われている。陸域の境界線は、海岸線から標高1600mの山稜線に至るまでの主要な陸域の特性を保護している。陸域のほとんどが原生的かそれに準ずる自然環境の条件を有している。

【e. 保護管理に係る要件】

遺産地域は、陸域のほとんどの区域が、国が所有・管理している国有林である。遺産地域は遠音別岳原生自然環境保全地域、知床国立公園、国指定知床鳥獣保護区、知床森林生態系保護地域に指定されている。これらの制度はそれぞれ我が国の優れた自然環境等を保護するための仕組みであり、開発等に対して厳格な法的規制を有している。また、遺産地域に生息するオオワシ、オジロワシ、シマフクロウ等は、国内希少野生動植物種や天然記念物に指定され、法的に保護されている。また、海域は国立公園に指定されているほか、漁業法等に基づく、北海道海面漁業調整規則等により、資源の管理が行われている。それぞれの制度を所管する環境省、林野庁、文化庁及び

北海道は、これら複層的に指定された保護区の管理や指定種の保護を円滑に実施するために、知床世界自然遺産地域管理計画を策定し、この計画に基づき遺産地域の一体的な管理を行っている。また、関係省庁の現地管理機関及び関係地方自治体は、利害関係者を含んだ知床世界自然遺産地域連絡会議を設置し、地域との連携・協働による保全管理を推進するとともに、学識経験者による知床世界遺産地域科学委員会を設置し、科学的な知見を反映した順応的な保全管理を進めている。

IUCNによる現地調査時(2004年)の指摘および記載決議(2005年)の勧告を踏まえて、漁業による海洋生態系への影響、ダム等の河川工作物によるサケ科魚類の遡上阻害、過剰利用の問題、過密度のエゾシカ個体群による植生への影響等の問題については、科学委員会の下にワーキンググループ等を設置し科学的知見に基づき検討するとともに、地域の利害関係者の意見をよく反映させながら対策を進めている。記載後には、エゾシカの問題解決を図るための知床半島エゾシカ保護管理計画並びに法律及び漁業者の自主規制等を基調とする多利用型統合的・海域管理計画を策定し、さらに、世界遺産センター及びIUCNによる保全状況調査(2008年)の勧告を踏まえて、全ての個別計画を統合した遺産地域の管理計画を2009年に策定した。また、2009年に署名された日露隣接地域における生態系保全協力プログラムに基づくロシアとの協力を通じて、日露隣接地域の生態系の状況把握に努めているほか、気候変動による自然環境の変化など予期せぬ影響に対処するために、科学委員会の助言に基づき、モニタリングを進めているところである。